

8-Abril-1927

聖地新報

金
や

子窓、床板位は張らせた家位までに早くしない。然し日本人には東洋趣味でな奴が今も崇つてゐる。所謂竹の柱に茅の屋根といふ趣味だ。

草屋根の檐漏る月影を浴びて夢結ぶ風流な性分と自然と融合した、即ちビンガで酔つ拂つた様な然氣分だ。此氣分が日本農家の一般に住家をお粗末で済ませせる。此風流性は、日本農民が過去の永い生活に、封建專制政治の壓迫と誅求、虐待された階級の惨めさに反抗して、廢頬思想が呪つてゆき柔化した慰安味だ。しかし時代、金衆生活自由に營める時代、金のある人間の趣味から見れば、日本の農家の草屋根風流生活は、確かに變態趣味である。負惜しみ趣味だ。それで西洋人には一寸呑み込めぬ趣味である。

金もある癖に、鳥の巣みたいな不潔の住家に満足して住んで居る西泮人の金の見る

ホテルで正式に晝食を食へば五ミルで済む處だに、一人當り十三ル、三人散財して三十三ル、全く所費が莫迦々々しいと、既にそんな事莫迦々々しいと、既に氣のついでゐる人もあるが、未だ氣のつかず居る人もある。あんな無駄使ひの小金を村の家長連が引締つて貯め、公的施設の方面で流通したら、村の學校教師の俸給も今の倍額拂へて、先生がどの位皆の児供に心よい教育を與へる事か。

先達聖市總領事館で教育會設立準備會が開かれ、各線の先生達が各自自月給の内密話をして、時々月影も庵に住んでも、時間外に、涎をくり合つて矢張呑んだり金がたまつたら、殖民者等よ、何うする積りか。

月影も庵に住んでも、時間外に、涎をくり合つて矢張呑んだり金がたまつたら、殖民者等よ、何うする積りか。

（完）

誠意を主旨として御用命に應じます
ブネマチコの破損は如何なる
箇處の修繕も致します
修繕後三ヶ月以内に同處の再
破損ある場合は無償にて再修
繕に應じます

上田商店

アルマゼン

AUTOMOVEI

Hotel Japonez
日 本 旅 館

			購讀料
社主兼編輯人	Kowanya	一ヶ年専 後金	二〇、〇〇〇
大	Redactor	全	三、〇〇〇
半	do "Semanario de S. Paulo"	回	〇〇〇
四分	Caixa, 58 & BAURU"	額	〇〇〇
全	Est. de São Paulo, Brasil	千	〇〇〇
六		百	〇〇〇
郎		十	〇〇〇
		一	〇〇〇

宮

ミツソン驛

藤澤豊次

北西線
ベンナ驛
平野

MARCENARIA JAPONEZA

Massagi Koga
BAURÚ

家
具
製
造

橫濱正金銀行支店

リオ、デ、ジヤネイロ

不動產獲得

Colonização Martins

Rua Gen. Couto de Magalhães, 26 Sob.
Caixa Postal 1820 S. PAUL

實地観察希望者には聖市より目的地迄片道乗車券を與ふ。
尙詳細は直接又は書面にてお尋ねを乞ふ
マルチス植民社
代 理 人
吉 留 方 緒

E S Hampshire & Co Ltd

S. Paulo: Rua Alvares Penteado, 17 Sobrado
Santos: Rua 15 de Novembro, 147 Sobrado

日本行の便宜
日本郵船會社船は
戸向サントスを出
他船に較べて日本
早く着きます
日本へ歸られる帆
船を除いて途中御

サン・トス港出帆豫定

本郵船會社 出帆 廣生

「これをお湯と一しょに呑むと貴方の病氣は直ぐ癒ります、それは私が一週間もかゝつて集めたお薬の花の粉です」と申しました。そして京太郎が何か云はうとした時には、蜂鳥の姿はもう高い／＼空に消えておりました。

「蜂鳥がお禮に來たんだわ」

「屹度そうだ、鳥でも感心なもんだね……」と京太郎も申しました

「兄さんすぐ服んで見る」

「あゝ、服んでみやう」

お花は小さなコップに湯を持つて來ました。京太郎は一口にグッと呑み込むと、ブンといゝ香りが鼻をつくやうに思はれました。

それから一夜寝て起きますと、なんて不思議なんでせう、翌朝は心が爽々しくなつて、元氣も身體

△聖州歌壇▽
秋十句
日出夫
秋暑し日向葵は早實になりて
秋の陽や一つ残れる茄子の花
バナ、囁めば齒冷し秋の夜
草果てゝ酒の友呼ぶ棉作り
大根洗ふブラジルの川に女か
朝霧に馬嘶けば秋の來し
霧の夜や隣りの家に灯一つ
蜻蛉飛ばず玉蜀黍の葉に並び
秋日和抜き残されし小豆あり

安兵衛喧嘩葬式結婚仲介業兼中央同志會幹事兼大工木村清八氏を尋ねる、御商賣が繁昌するのか馬鹿に景氣好さそうな顔だつた。夕方マルケーズイツーの弟の家に出掛け、玄關から案内も乞はず奥壇の間に通る、「カルナバルの中の矢日に妻君男兒分娩母子壯健なり」はちゃんと木村君から聞いて居たので、喜びを云はふとすると向ふが先手を打つて、兄さん今度のは男ですよ、といきなり浴せかけ、如何にも嬉しそうに自分一人有頂天になつて、天上天下男兒を作り得る者唯我獨りと心得て居るらしい、矢張り俺も嬉しかつた。

其の夜兄第三人一緒に寝る、兄弟は有難いもので旅先のやうな氣分はちつともせぬ。

此の研究に就て總領事の眞摯な態度は、講習生に非常な満足を與へた。
講習第二日目「伯國諸州土性地質」
前講話中江越技師の北伯諸州實地踏査談を地質、氣候、雨量等を標準に人情風俗の奇異な點にも言及し、寫真木材標本等の實物を示しての講話は如何にも面白かつた。後土壤の種類鑑定法講話中、岩石を以て土壤を鑑定する法は、岩標本を以ての實物教授であつただけに皆呑み込み易かつたと思ふ。少しソキ道に這入るが、出前一日も暇暮してどうせ錄でもない机上の空論を講習して何する、と

CONFEITARIA Bar e Bilhar G. YABIKU <u>Caixa, 27 PROMISSÃO</u>	人證公 A. 日本人諸君の代書公證 の御求めに應ず バウル市ルバイバルボーザ 廣場(公園廣場)二ノ三〇 (サイ判所近く) 電話 五	人書代 A. Dr. I. 診察 午前八時ヨリ十一時マダ 北西線グアイサラ
---	--	--

CASA NISHIMOTO
Armazem
買 仲 穀 雜

田本

出張撮影にも應じ

西線リヌス市お寺廣場横町
本田安喜

「お花、蜂鳥にお禮に行かうか
へ出て行きました。
やがてお父さんとお母さんは
「そう、お禮に行かなくつちや
いわ、折角角さんの病氣を癒し
呉れたんですね」
そこで二人は打揃つて前の小屋
參りました。見るに酸漿のやう
巢は茅の尖でフラー／＼と風に搖
れて居ましたが、中はもう空
ぼになつておりました。
「オヤ、もう巢立つたのね」
「そうだ、早いもんだなあ」と
ひながら兄弟が小屋の外へ出る
屋根の上に親どり子鳥が三四捕
て、嬉しさうにブル／＼と羽音
たてゝ飛び廻つて居りました。

聖市からの歸路ベンナ驛で香山氏に會つた。何時もの通りにニコニコして今度の講習會の感想を書けと云ふのでシンと答へたが、後で困つた事を受合つたと思つたが取り返しがつかぬので書くのは書くが、感想録なんか出來さうないから田子作の都入りを其儘すべんだらりと書き並べる事とする。

三月一日午前五時カキ色の服に四年前からの汚浸みの帽子と云ふ武者振り、先づヒイキ目に見ても田子作とより見ぬ服裝でスウキサ耕地迄テクつてジヤルデネイロに飛び乗つたが、大雨の爲め乗車賃往復廿ミル也と來た、お尻の瘤製造貿易計算して居やがる。

三日の午前十一時聖市着、中矢商店に末弟を尋ね、續いて聖市の淮

明くれば四日講習會に出掛ける
總領事館内の一室講習生十三名着席、先づ赤ら顔の圖体の大きい筆
の赤松總領事が人並の顔色、人並の脊丈で御挨拶、姓名判断哲明術
で勝手に顔色圖体を極めて居ながらはり易は當にならぬ。總領事の挨拶は極めて要領を得てゐた、此の人は官吏と云ふより事業家に適した頭の持主だと直感した。
此の日は日程通り打合せ會であつたが、購買販賣組合組織の研究會に就ての討議には可成り講習生からも意見が出た、が結局具体案迄進まず研究宿題として閉會しな

政治家として矢面に立働くのは
多くて効妙い。影武者位が宣し
どうしても俺は伯國の農業を今
しく向上進歩さす方に力瘤を入れ
ねばならぬと、一昨年頃から人
も語り、自分でも天晴日本人の
業經營向上の指導者となり度い
心もあり、且又自分の趣味と一
して居るので、試作をしたり研
究をしたりして居る矢先今度の講
會の通知が來たので、旅費まで
りても出席した譯だ。（未了）

所次取符切定指船商場

弱い者を助けた時には誰れでも
愉快で一杯になるものですが、二人
も云ひ知れぬ満足を見にました。
「……聞ゆるまだきの青葉の笛……」
「……」とさつきの歌のつまきを唱
ひながら、二人はやがて家へ歸つ
て参りました。

「どうしたらうねあの蜂鳥は」
「そうネ……もう卵は孵化つたか
も知れない」

幾度か二人はそんな事を話す

お母さんも吃驚して
「お前何んだい、急に起き出し
大丈夫かね」と尋ねますと、京
太郎は肩を陸軍大將のやうに搖つ
「もう大丈夫です、何ともあり
せん、この通りです」
京太郎は威勢よく家の中を歩つ
見せましたので、お父さんもお
さんも大變喜びました。
けれど共二人とも蜂鳥のお薬の
は話しませんでした。

琉球へおちやるなら
草鞋履いておちやれ
琉球は石原小石原

年経れど今も變らず
よほ／＼と道行く人は
石原を降りつ登りつ
年毎に廢れゆくかも
首里城下今は僅かに
そのかみの面影偲ぶ

童話 蜂鳥の恩返し

卷之三

沖繩の追憶（四）

縦や横道路の面なべて
敷き詰めし石原小石原

置く。

元
御旅

伊藤

アラサツバ驛唯一の邦人

八宿

